

# 八段合格者体験手記 私は「ここ」を心がけて合格した

古流で<sup>はら</sup>肚がすわり  
相手の起こりが見えるようになった

平田富彦

東京都・67歳・会社員

ひらた・とみひこ／昭和17年岡山県生まれ。大原高から警視庁に奉職。捜査一課課長、大塚署長、立川署長などを歴任する。現在、三菱地所(株)CSR推進部顧問。平成21年11月、八段合格。



昭和42年、町田署新米刑事の頃



昨年11月の東京八段審査会で、元警視庁捜査一課長の平田富彦氏(東京)が難関を突破した。先祖平田将監がああ宮本武蔵の祖父にあたるという平田氏は、小野派一刀流や直心影流の古流が合格への道を切り拓いてくれたと強調する。

頑張らなくていい  
真剣、誠実、ひたむきさが継続に

私には輝かしい剣歴はありません。毎年冬・夏に行なわれる警視庁内での対抗試合に署・課・隊の選手として39年、毎回出場したくらいのことです。その間、捜査一課に通算11年在籍し、係長、課長も務めさせていただきました。捜査一課はご存知のように殺人、強盗、放火、誘拐、人質立てこもりなどの凶悪事件を扱う部署です。私が37歳で捜査一課の係長になって最初に取り調べたのが、昭和56年の「深川通り魔殺人事件」の川俣軍司です。川俣は逮捕の翌朝、取調室で「かつ井を食わせろ」と大声をあげた。無視すると、「舌を噛み切って死んでやる」と。私が「やれるものなら、やってみる」と気合をこめて言うと、真っ青にな

っておとなしくなり、それから素直に話を聞くようになりました。これも剣道で培った気力が活かされたことだと実感しました。剣道は私にとって背骨のようなものであり、これがなかったらあらゆる困難を克服できなかったと思います。

町田副署長時代に六段、立川署長時代に七段(平成10年)を取りました。八段審査に向けて本格的に修行を始めたのは、警視庁を退職した平成13年秋からです。特例によって平成15年から八段を受審し、挑戦12回目で合格させていただきました。合格の秘密はありません。秘訣は「合格するまで絶対に諦めずにコツコツと努力を継続する」ことです。これまで私がコツコツと実践してきたことを紹介させていただきます。皆様の少しでもお役に立てればと思います。

実践するにあたって心がけてきたこと

剣道の稽古以外では坐禅、小野派一刀流直心影流の三つをあげたいと思います。

坐禅は10年来、行なっています。毎朝4時に起きて一炷香、数息観による丹田呼吸を行ないます。これをやることで気を静めて己を客観視することができ、自分の至らない点を見つめ直せるようになったからです。

小野派一刀流は20年余り修行しておりますが、いちばん私の剣道に大きな効果をもたらしてくれました。それまでは私の剣道は荒っぽいものでした。相手を打つことだけを考えており、いま思うと恥ずかしいかぎりです。しかし、小野派一刀流に出合っって剣の道で大切な心、相手を思いやる心を学ばせていただきました。相手を引き立てることで、自分も引き立つことがわかったからです。

小野派一刀流の技はすべて切り落としです。これを成功させるには生死の境に身をおいて、いかにぎりぎりまで相手の太刀を我慢できるか、つまり見切りが重要な要素になります。相手の太刀より早く動けば、相手にその動くところを斬りつけられてしまう。相手が二の太刀を出せないところまで打ち切らせるためにも、見切り(我慢力)を養わなければなりません。相手を打ち切らせれば、自分の技が活きてくるのです。それが切り落としです。

見切りを養うことにより、<sup>肚</sup>ができてきて我慢力が身につきました。

昨年11月の東京審査では、自然にそれを表わすことができたと思います。先を取って攻め込んだとき、相手が打ってき

た瞬間、体が無意識に反応して切り落としの面を打つことができました。計算ずくではない技でした。体が自然に反応して出た技が決まるのが理想ではないでしょうか。もちろん相手の方が正しい技を出されたから決まったと思います。また、体の軸を安定させることにも効果がありました。相手の技を見切った切り落としを成功させるには、微妙な足さばきが重要ですが、体の軸がぶれると成功しません。体の軸が安定すれば、打突に刃が生まれ始めるからです。八段合格後、笹森建美宗家から「審査の前、平田さんの稽古を見たときに力みが消えて、軸がぶれず体が安定してきている」とい

ました」と言われました。自分ではあまり自覚はなかったのですが、いま振り返ると無理無駄なく切り落としができるようになってきたという実感はありました。小野派一刀流ではなぜ負けるのかも学びますが、負けることを覚えることにより、なぜ負けたのかを知ることが勝つことが見えて、それを相手にさせればいいのだとわかってきました。

小野派一刀流を修行された先生方の中から多くの八段、九段が生まれております。自分の剣道を見つめ直してさらに上をめざすうえでもお勧めします。

直心影流の修行は8年ですが、長く吐いて短く吸う呼吸法を体得することがで



笹森建美宗家と小野派一刀流の形を打つ

は、頑張らないことです。普通頑張ることが大事だとよくいますが、私は頑張ることは「我」を張ることにつながっていると考えており、頑張ろうと思うと体全体に力が入ってかえってよくなく、頑張りすぎて疲れてしまうからです。その代わりに、「真剣、誠実、ひたむき」に何事も取り組むようにしています。そうすることで一所懸命になれ、継続へとつながりました。頑張らなくていいと思えば、気分的に楽になれたからだと思いません。

小野派一刀流で学んだ見切り我慢力、体さばきが養えた

八段合格にならしためたものとして私は、